

「心理臨床学特別演習Ⅱ」【修士論文評価】(M2・1月) 評価 院生氏名 ()

指導教員 () : _____点 (50 点満点) 副指導教員 () : _____点 (50 点満点) 合計点 : _____点 (100 点満点)

評価項目	得点				
	2	4	6	8	10
問題設定と目的：問題と目的が明確か。	問題設定が明確でなく、先行研究のレビューも不十分で、目的も明確でない。	問題設定はある程度明確だが、先行研究のレビューは不十分で、目的も明確でない。	問題設定は明確で先行研究のレビューもある程度できているが、目的があまり明確でない。	問題設定は明確で先行研究のレビューも十分であるが、目的があまり明確でない。	問題設定は明確で先行研究のレビューも十分であり、目的も明確である。
方法：正確かつ再現可能か。	手続きや分析方法も含め、記述内容や正確さがまったく不十分である。	手続きや分析方法が大まかに記述されているが、あまり正確とは言えない。	手続きや分析方法がある程度正確に記述されているが、不足している内容がいくつか見受けられる。	手続きや分析方法がほぼ正確に記述されているが、わずかに不足している内容がある。	再現可能なまで手続きや分析方法が正確にかつ過不足なく記述されている。
結果：明瞭で適切か。	量的にも不十分であり、目的に沿った書き方がされていない。	量的には十分であるが、目的に沿った書き方がなされていない。	目的に沿って過不足なく記述してあるが、内容構成や説明の仕方にやや難がある。	目的に沿って過不足なく記述してあり、内容構成や説明の仕方にほぼ問題はない。	目的に沿って過不足なく記述してあり、内容構成や説明の仕方は非常によい。
考察：深く考察できたか。	量的にも不十分であり、目的と結果に即した考察ができていない。	量的には十分であるが、目的と結果に沿った考察ができていない。	目的と結果に即して十分な考察ができているが、論旨が明確でない。	目的と結果に即して十分な考察ができており、かつ論旨が明確で説得力があるが、課題や展望が示されていない。	目的と結果に即した考察ができており、かつ論旨が明確で説得力があり、課題や展望が示されている。
論文としての体裁：適切な日本語表現を用い、心理学の論文としての条件を備えているか。	文法的な間違いや誤字・脱字が多く、専門用語の表記方法や引用の仕方などに間違いが多い。	日本語表現上の問題はないが、専門用語の表記方法や引用の仕方などに間違いが見られる。	日本語表現上の問題はなく、専門用語の表記方法や引用の仕方にも問題はない。	日本語表現の点でもすぐれており、心理学の論文として必要条件を備えている。	日本語表現の点でもすぐれており、心理学の論文としても完成度が高い。